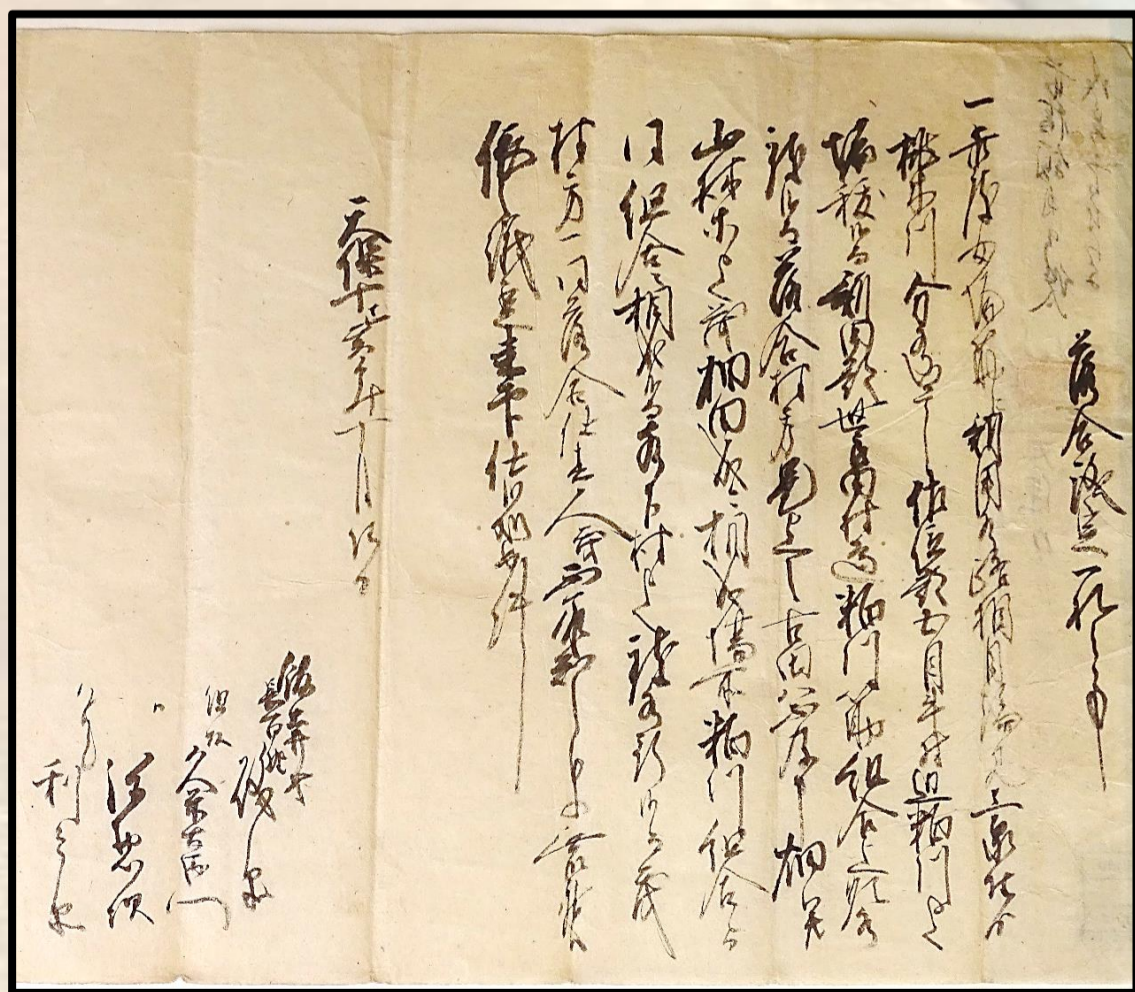


近世文書に残された中世の記憶 ～幻の女堀～

おんなぼり 女堀は、現在の^{かみいずみまち}前橋市上泉町から伊勢崎市^{くにさだまち}国定町に向けて、東西約12kmにわたって横断するかつての用水路の跡です。

平安時代の終わりに掘られ、最終的には未完に終わったと見られています。不思議なことに、これほどの大事業にも関わらず一切当時の記録に出てきません。その後すっかり忘れ去られてしまった幻の巨大用水路でした。ところが、江戸時代半ばには女堀を再興し、水不足を補うよう企てる動きがあったようです。今回の展示する史料は、当館が収蔵する福島英一家文書(P0110)のなかから、**江戸時代後期の女堀復興計画に関する古文書**を紹介します。



女堀発掘状況(前橋市飯土井町)

展示史料 P0110 福島英一家文書 No.1314 「落合議定一札之事」

背景・写真:(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 33:女堀』1985より加工して転載。